

# パワポを活用した聞き手を動かす技術 第3回 グラフィックデザイン

NPO 法人群馬活性化企画センター 薬師寺 千尋

## 1. はじめに

聞き手（視聴者）を動かすためには、前号で述べた通り、見やすく、聞き手の心の動きからくる反応設計を含めたわかりやすいプレゼンテーション（以下プレゼン）が欠かせない要素である。そのためには、視聴者が何を説明されているのか理解できる事と、視聴者の視線を自然に捉え、伝えたいことを瞬時に判断できる視覚（グラフィック）デザイン要素を取り入れた外見を持つことが重要である。

## 2. ノンデザイナーの誤解

「伝えるためのデザイン要素は、直感やイメージがないとできない。」もし、このように考えているのであれば考え直すべきである。視聴者を動かす共通語は「数字」である。イベントであれば集客率、Webマーケティングでいえば、実際の売上やPV（ページビュー）、CVR（コンバージョン率）、チラシやDMでいえば到達率や開封率、反応率などで語るべきである。自分たちが作っているプレゼン資料、パネル、ポスター、チラシ、冊子類、ホームページが何らかの成果を求めていたりするのであれば、見た目には素晴らしいイメージだけでは成り立たない。芸術性を必要以上に取り入れるのは見直すべきである。デザインの語源は「アート」ではなく計画を記号に表すという「設計」であり、そこには前号で説明したデザインの基本原則（近接、整列、反復、対比）のように理論や理屈が存在しているとい

うことを忘れてはならない。

グラフィックデザインにおいて最も重要なのは、「作り手側の意図を明確に見た人に伝える」ということ的设计である（図1）。



図1 デザインとは

## 3. グラフィックデザイン制作

ほとんどのグラフィックデザイナーは、adobe社のイラストレーターやフォトショップを使用している。しかし、プレゼン制作者全員がこのソフトを持っているわけではない。パワーポイント（以下パワポ）ユーザーのほうが圧倒的に多い。印刷データも昔は「イラストレーターで、アウトラインをかけて色はCMYKでないと受け付けません」という時代もあった。しかし、今はどのようなデータでも、PDF形式（図や画像の配置がずれない形式）で持ち込みOKになっている。adobe社のソフトで制作される芸術性の高いポスターや印刷物などに比べ、パワポでの芸術性の高い編集加工はなかなか難しい。そのような中で、多くの職場で多用されているパワポを使用してできるデザイン制作の方法を、adobe社のイラストレーター、フォトショップと比較しながら紹介していく。

#### 4. 印刷物のサイズ

資料、チラシ、ポスター、小冊子などでよく使われるサイズが、Aサイズである。イラストレーターであればデフォルトで初期画面はA4かA3サイズになっている。よく誤解されるところであるが、パワポの初期画面の4:3, 16:9がそのままA4サイズと思い込んでいるパワポユーザーも多い。Aサイズの印刷物として使用するなら、このまま出力データとしては持ち込めない。スライドのサイズを必ず数値で印刷指定するサイズに設定する必要がある。下図の①②③④の手順でサイズ設定する(図2)。

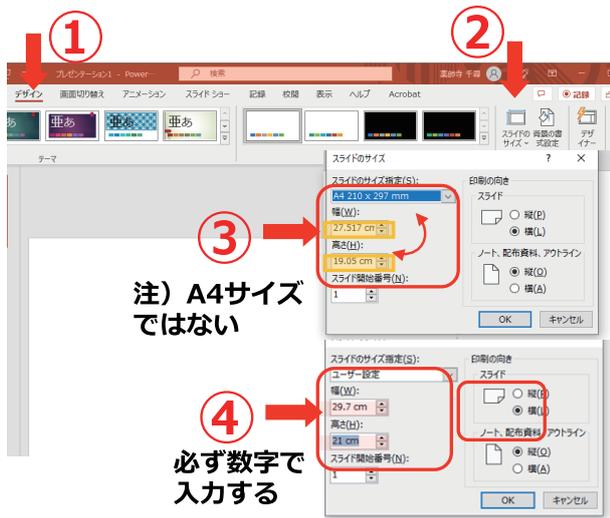


図2 スライドサイズ設定

#### 5. ページ物作成(冊子類)

数ページにわたる冊子などをデザインする場合、1枚ものならば気にならないところであるが、各ページでばらつきを出さないために、デザインの統一作業を行う。特にレイアウト(テキスト位置、写真、図の位置)など数値でおさえる必要が出てくる。このレイアウトはプロであろうと、ノンデザイナーであろうと必須の作業である。イラストレーターであればガイドラインを定規にそって引き出してくる作業である。同様に、パワポでも①の表示タブから、②ルーラーにチェックをいれると、画面上部にスケ

ールが表示される。同じく①表示タブから、②のグリッドにチェックを入れると、2cmごとに点線の方眼が表示される。

ガイドにチェックを入れると、画面の中心にタテ、ヨコに点線が現れる。この線は動かせるので、数ページにわたる図や表などの位置を揃えるのに使う(図3)。

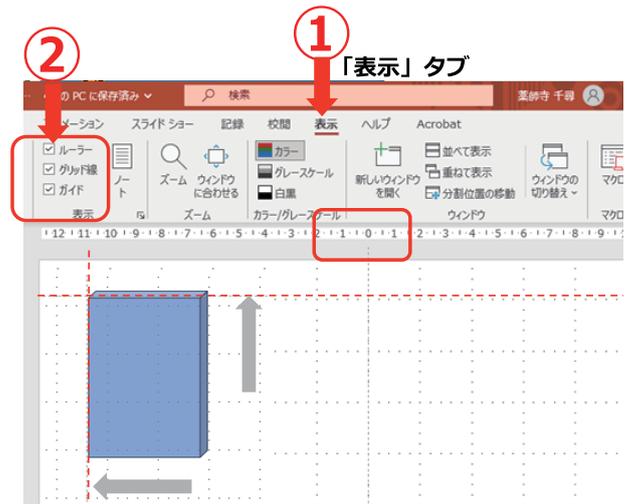


図3 数値でおさえるガイド線

#### 6. 重なる図形の編集

イラストレーターで図形の編集作業の際によく使われる、パスファインダー(図4)もパワポで可能である。実は、この機能はあまり知られていない。



図4 パスファインダー(イラストレーター)

パワポはプレゼンのソフトということで、ユーザーは学生の頃から使い始めるが、割と簡単に扱えるソフトのため、その後も、教本に頼らずに俗にいう「力技」でプレゼンスライド作成が可能である。そのためこのような機能を見落としがちで、四苦八苦して図形を編集していた、という話をベテランからよく聞く。パワポユーザーの大部分にいえることで

あるが、基礎をほんの少し勉強するだけで劇的に業務の効率化につながるので、ぜひ教本を見てほしい(図5)。図形の書式タブから①②③の手順で5種類の中から選択する。①の図形の書式タブから、②図形の結合のアイコンをプレスすると③の結合の種類がでてくる

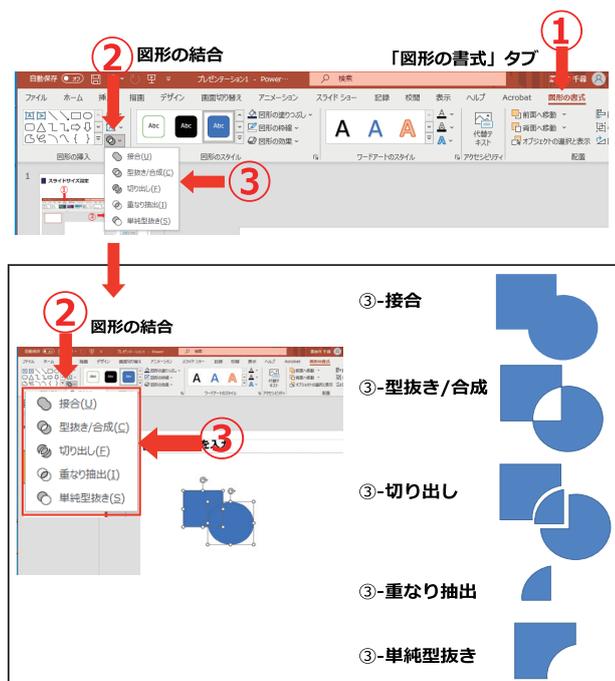


図5 重なる図の編集

## 7. 頂点の編集 (ベジェ曲線の編集)

イラストレーターの最も得意とするところのベジェ曲線(曲線の形式の1つ)をパワポの図形編集能力により編集ができる。イラストレーターのようにアンカーポイントの増減はできないが、操作ハンドルが現れベジェ曲線の編集(頂点の編集)が可能で

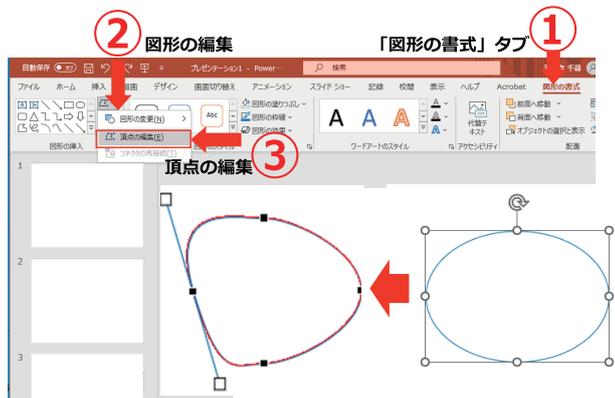


図6 頂点の編集

ある(図6)。

## 8. 写真画像の加工

イラストレーターと並ぶフォトショップは写真画像編集を得意とするソフトである。パワポがどこまでフォトショップに追随できるかという点、パワポでは、色相や明るさについては、編集効果は一括で行われるため、フォトショップのように、一部を選択して、変更するという操作はできない。編集能力は残念ながら足下にも及ばない(図7)。



図7 画像編集能力

一部を変更する場合、パワポのやり方としてはパーツごとに画像を切り抜き、合体させていく方法が



図8 パーツごとの合体

ある。手間はかかるが無料の外部サイト（画像編集、背景切抜きソフト）を利用する方法である（図8）。

## 9. 画像のトリミング（切り抜き）

画像のトリミング機能に関しては、パワポは、①②③の手順道理に作業を行い基本図形を使えば、簡単にその図形に切り抜けるという利点がある（図9）。



図9 基本図形のトリミング

しかし、単純な基本図形でのトリミングには限界があり、自由で温かみのある有機的な形でトリミング（切抜き）を行いたい場合がでてくる。前ページの頂点の編集を使って基本図形を変形させて自由な形を作り、その図形でトリミングをすることができ。しかし、作業者がベジェ曲線になれていないと、なかなか思ったような形にならないので努力がいる（図10）。

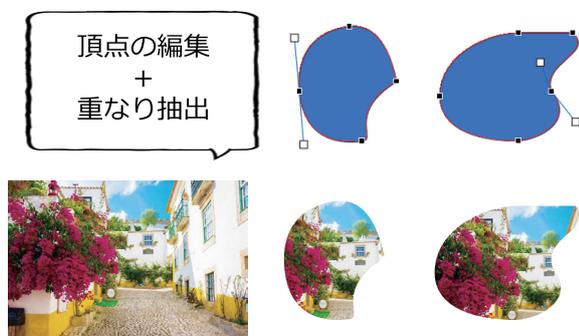


図10 自由な形でのトリミング

そのようなときは、また無料外部サイトに頼るのも1つの方法である。<https://www.blobmaker.app/>

（プロブメーカーで検索してもでてくる）勝手に有機体を作ってくれるのでイメージに合う形をダウンロードして使える（図11）。

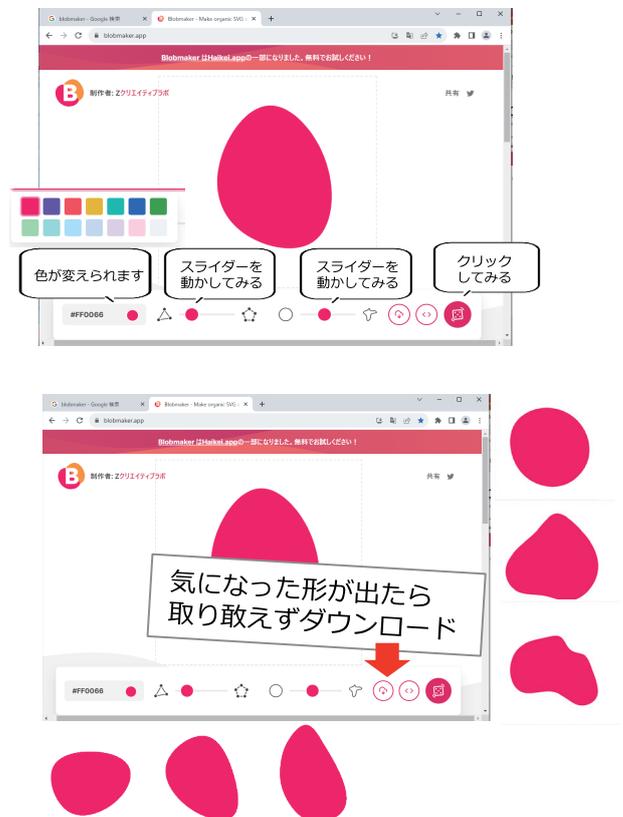


図11 プロブメーカー

ダウンロードされたファイル形式は、SVG形式なので、パワポで使用するため、①グラフィックス形式→②図形に変換→Png形式に変換が必要である。この方法を使って、グラフィカルな冊子表紙、PRチラシやポスターも作ることが可能である（図12）。

## 10. 文字加工

パワポはグラフィックソフトではないので、文字加工についてはデザイン制作上限界がある。以下の①～⑤はよく使用される方法である。

- ①既存のフォントの他に、太文字を含めたデザイン性のあるフォントをダウンロード
- ②ワードアートを使用
- ③テキストを強調のために、太文字にする
- ④文字の中に画像を入れる
- ⑤曲線状に文字を配置する

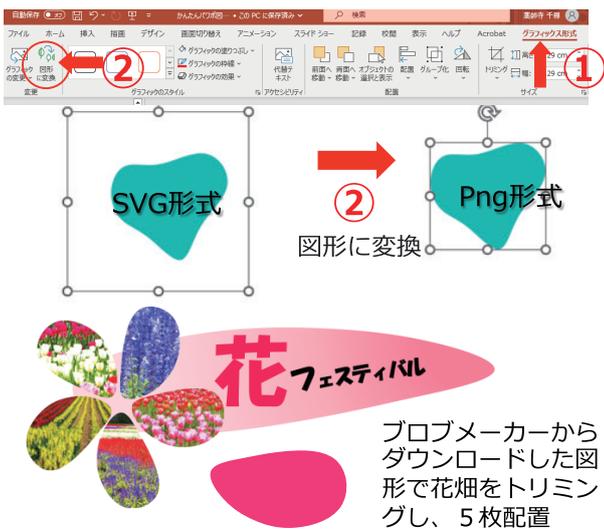


図12 アイコンやイメージの作成

しかし、デザインを行う上で、その効果以上に文字に強さや厚みをつけたい場合や、アイキャッチャーやアイコンを作成する上でよく使用されるのが袋文字である。ここでは、袋文字作成方法を簡単に紹介する(図13)。



図13 袋文字加工

## 11. 見せるためのグラフ演出

視聴者を動かすプレゼンに、コミュニケーション

や、説明のための図やグラフは欠かせない。数値をそのままグラフにする正確さも必要であるが、図はもとより、円グラフや棒グラフを、フォントも含めてグラフィカルに演出することも大切な作業である。プレゼンを見た目に、親しみやすく、ユニークに仕上げる方法も視聴者のリアクションをもらい、注目や興味から欲求段階に気持ちを上げるために重要な要素である。下図は、オレンジの輪切り画像を、円グラフに加工、オレンジの使用法のパーセンテージを「見せるためのグラフ」として紹介している。これらのグラフは、プレゼンの内容に合わせて作成者自身で手を加え、作成しなければならないので最初は手間がかかる(図14)。

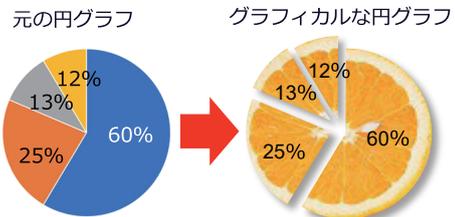
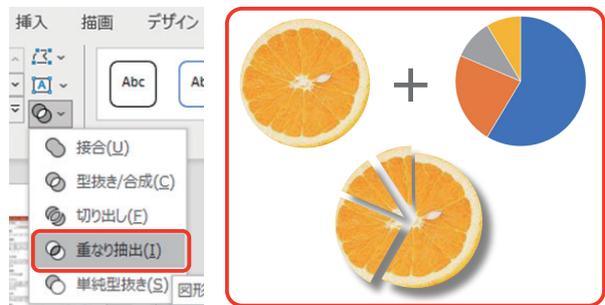


図14 見せるためのグラフ

## 12. あとがき

adobe社のイラストレーターやフォトショップには及ばぬが、パワポならではの、見せるためのグラフィック処理は、「図形の編集」作業に慣れると割と簡単に作成できる。視聴者に説明し、納得させるためのグラフィックデザイン制作は、パワポの編集機能を知っていれば十分に作成できるので、ぜひ挑戦してほしい。

参考サイト

<https://www.remove.bg/ja>

<https://www.blobmaker.app/>